

平成29年12月10日

第155号

NJ 素流協 News

平成29年12月10日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館5階)
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>

岐阜県で先進地視察研修を開催

～高級材加工と市場、コンテナ育苗苗の現場を見る～

NJ素流協は、11月14、15日の2日間、岐阜県において先進地視察研修を開催し、組合員、役員等20名

が参加した。良材の集散地となっている岐阜県の神社仏閣用製材工場、コンテナ苗木生産施設及び全国銘木展示大会を視察した。

▽11月14日(火)

①桑原木材(株)金山工場(下呂市)

桑原木材(株)(本社愛知県犬山市、桑原教行代表取締役)の執行役員で金山工場金山国産材担当の佐藤学氏

に事業の概要を説明いただき、工場内を案内していただいた。

同社は1887年(明治20年)の創業以来、原木の仕入、製材加工、建築までを自社による一貫体制で行っている。同社の主要事業となっているのは特殊大径材の仕入・加工であり、長い歴史の中で高品質の木材を供給してきた。特に神社仏閣や文化財などへの納材実績が豊富である。

金山工場では主にヒノキを製材しているが、秋田県能代市に秋田スギ

を製材する工場も持っている。製材後の加工拠点としては、美濃加茂加工センター(岐阜県美濃加茂市)、大連桑原木業有限公司(中国・大連市)がある。

金山工場の職員は40名で、原木消費量は年間約1万㎡である。大部分が神社仏閣用の注文材生産であるが、本社や西日本事業部(福岡県)向けの内装材、フローリング材も生産している。

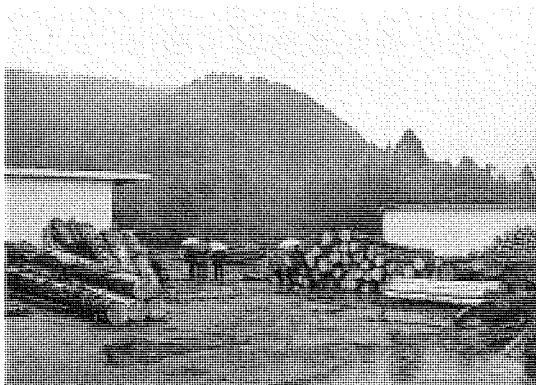
特注材の原木仕入は、おおよそ市場から2分の1、立木購入生産2分の1となっている。立木からの仕入の半分は素材生産業者の持ち込みで、



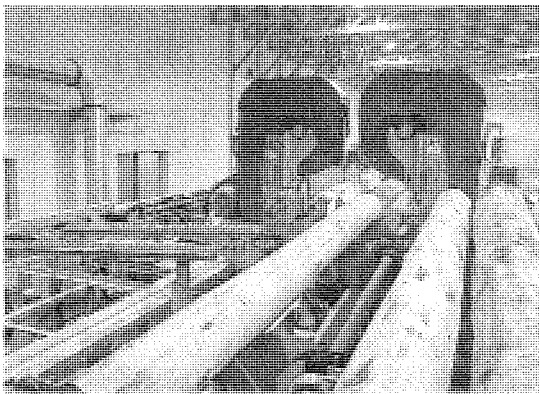
桑原木材(株)金山工場はヒノキを中心に加工する



佐藤氏に事業の概要を説明いただく



ヒノキの良材をストックしている



寺社用の柱は大径・長尺である

素材生産現場から採材方法について相談が寄せられることもあるという。工場での製材は、長さ12 m、丸太元口径1・2 mまで可能である。神社仏閣用の注文材などは、製材機と「人の手と目」によって加工される。小径材対応や利用率の向上のため、DIY材や工作用材などの細かい製品も生産しており、女性の従業員が活躍している。



特注品加工には人の目と手による作業が必要

材工場が多くあった。現在下呂市では10軒以上の工場が残っているが、化粧材を挽く工場はなくなったという。

②住友林業株式会社 岐阜樹木育苗センター（下呂市）

岐阜県では、製材、合板工場、バイオマス発電所の稼働により素材生産が増大する中で、伐採後の再造林用の苗木不足が課題であった。ヒノキ苗木の生産量は充分だが、スギについては他県から調達している状況であった。そこで岐阜県は民間企業による苗木増産を目的に公募を実施。これに住友林業(株)が応募・採択され

とに温度制御が可能となっており、夏場の暑い時はヒートポンプで室温を下げるなどして、天候に左右されることなく、苗木にストレスを与えずに育苗ができる。

ビニールハウスのカーテン、天窓の開閉などは全て自動化されており、タイマー設定で定時に作動するようになっていている。また、ネットワーク上で見ることが出来るライブカメラが設置され、パソコンやスマートフォン

「苗木供給体制整備事業協定」を締結した。

同社は平成24年より宮崎県の日向山林事務所において20万本のコンテナ苗木の生産体制を確立している。協定締結を受け、同社は岐阜県が所有する下呂林木育種事業地内に岐阜樹木育苗センターを設立した。

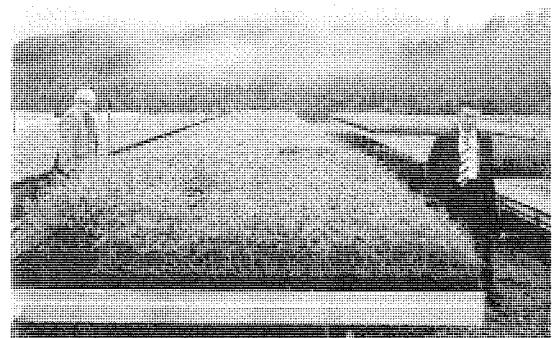
現在は第1期工事が完了し、年間20万本の苗木生産能力を有している。今後さらに第2期工事で40万本、第3期工事で20万本を追加し、平成35年には生産効率の向上も見込み、100万本の生産を計画している。

同センターの育苗ハウスは各棟ごとに温度制御が可能となっており、夏場の暑い時はヒートポンプで室温を下げるなどして、天候に左右されることなく、苗木にストレスを与えずに育苗ができる。

一般的にスギ種子の発芽率は30%程度であるが、ここでは従来に比べ、発芽率が飛躍的に向上している。なお、九州大学や森林総合研究所らと共同で、赤外波長域（可視光に近接する長波長側の光域）における反射

ンで確認することが出来るため、休日等も無人での管理が可能となっている。

施設の心臓部が発芽室である。農業分野では野菜や花卉の発芽室設置がよく見られるが、林業分野は例がない。発芽室を備えたことで、一度に14万体の幼苗確保が可能となっている。



生長したスギのコンテナ苗

率に基づいて、発芽が期待される樹木の充実種子を効率的に選別する技術を開発し、実用化に向けて取り組んでいるところである。

播種には半自動播種機を導入しており、手作業と比べて生産性は10〜15倍にもなる。播種機はスギだけでなく、カラマツ、ヒノキの種子にも対応する。

コンテナはリブ、スリット(※コンテナ苗の育成用容器には、内側に細長い突起「リブ」を付けたものと、細長い穴「スリット」を開けたものがある。いずれも苗の根巻きを防ぐための形状)があり、生産稼働の前年には露地栽培により150ccのものを使って試験的に生産したが、露地栽培に比べて育苗ハウス内栽培の方が得苗率は高いとのこと。形質が悪く出荷できないものも出てくるが、100%出荷することを目標としている。

センターでの作業には、地元雇用の女性3人があまっている。コンテナ苗木を乗せる台は、1人でも移動できるムービングベンチ方式を採用

し労働負担を軽減している。培土充填のときに20kg近くある袋を持ち上げる作業が、唯一力仕事となっているという。

センターが所在する下呂市は、林業種苗法の規定に基づく種苗の配布地域において第二区となっており、北海道・九州以外の地域に苗木が出荷できるため、地域的に恵まれた箇所となっている

▽11月15日(水)

③岐阜県銘木協同組合(岐阜市)

11月12〜15日の4日間開催された第60回全国銘木展示大会のうち、原木卸売を視察した。



5800万円で落札された内閣総理大臣賞のケヤキ

会場内には、国有林、公有林、民有林等の優良素材等をはじめ、製材、製品、磨丸太、加工品などの展示品が、所狭しと並べられていた。

出品材の中には、内閣総理大臣賞、農林水産大臣賞、林野庁長官賞などの受賞材があり、そのうち内閣総理大臣賞受賞の大分県産ケヤキ(玉杵、長さ4・4m、径200cm)は5800万円で落札されたという。また下北森林管理署のヒバ丸太等も出品されていた。

土場に展示されている丸太は、その場で順番に競り売りを行う。買手は番号付きの帽子を着用している。



下北森林管理署の青森ヒバも出品されていた

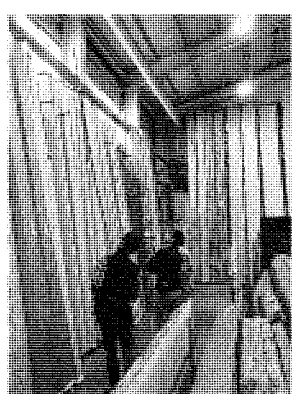
この大会期間中、延べ920人が卸売に参加したとのことである。

今回の視察では、通常の業務では見る機会の少ない最高級の木材の加工と取引の現場を、また北日本でも体制整備が急がれるコンテナ苗生産の現場を見ることができた。

視察を受け入れてくださった各社の皆様に、厚く御礼申し上げます。



土場での競りのようす



製材品も多数展示

トピックス

岩手県森林再生機構 事業説明会を開催

岩手県森林再生機構（中崎和久理事長）は11月7日、岩手県滝沢市において同機構の事業説明会を開催し、当組合員や岩手県森林組合連合会、岩手県森林整備協同組合傘下の素材生産事業者ら約40名が出席した。

機構の副理事長を務める当組合鈴木理事は、説明会の冒頭、「我々が今残っている材は先代、先々代が植えたものである。我々も植えて次代に資源を残していく必要がある。再造林支援の取組みに是非とも協力をお願いしたい」旨の挨拶を行った。

続いて事務局から、「岩手県森林再生基金事業」の趣旨説明と、協力金拠出についての依頼があった。同事業は、森林・林業、木材産業に関わる者が資金（協力金）を出し合い、県内の森林所有者が行う再造林に対し助成を行うもので、原木出荷者・流通業者には、販売（取扱い）した

原木量に応じ1㎡当たり20円、原木購入者には購入した原木量に応じ1㎡当たり10円の協力金の拠出を求めることとしている。現在、協力事業者と順次、協定書締結の事務手続きを進めている。

組合員から 協力金賛同の声が続々

当組合は原木流通業者として、すでに森林再生機構と再造林事業実施協力の協定を締結し、11月取扱分から協力金を拠出することとしている。この度、これとは別に、原木出荷者である個々の組合員に対し、協力金拠出の意向を確認するアンケート調査を実施した。

アンケートでは、多くの組合員から賛同の回答をいただき（※11月末回答率83%時点）、回答者の88%が賛同、現在、賛同された組合員と機構との協定書締結の手続きを進めている。一方、残る組合員や組合員以外の方々にも順次協力の輪を広げべく、取組みの趣旨や基金事業の説明に努めていくこととしている。

日本林業協会 調査研究会出席

日本林業協会（前田直登会長）は11月2日、東京都において「森林資源の循環利用と新たな森林管理のあり方調査委員会」を開催し、当組合から委員として鈴木理事が出席した。

東北地方森林整備事業 連絡協議会

東北地方森林整備事業連絡協議会（村井八郎会長）は11月21日、秋田市において協議会を開催し、当組合から鈴木理事と高橋常務理事が出席した。国有林が発注する請負事業等の現状と東北森林管理局に対する要望についての協議等が行われた。

岩手県の木炭生産者の懇談会 において鈴木理事が講演

岩手県北広域振興局林務部は11月24日、岩手県久慈市において木炭生産者の懇談会「炭焼き談義」を開催し、鈴木理事が「儲かる！木炭のススメ」と題して講演を行った。

おすすめの本 山のきもち

— 森林業が「ほっとする社会」をつくる —



著者：山本 悟
発行：東京農業大学出版会（定価1,600円＋税）
著者の山本悟さんは毎日新聞社記者。1986年入社して最初の勤務地が盛岡支局だった。農林水産省・経済産業省担当等を経て、2006年毎日新聞創刊135年記念事業として植樹キャンペーンを企画。以来植樹、間伐、山仕事を企画・実施し紙面で発信している。わが国の山の現状をくまなく取材し、森林の将来を問うタイムリーな一冊です。

平成30年度岩手県林業関係 施策に関する要望活動

岩手県森林・林業会議による岩手県議会・岩手県農林水産部への平成30年度林業関係施策に関する要望活動が11月28日、盛岡市において開催され、当組合から高橋常務理事が参加した。要望事項は次のとおり。

1. 再造林強化対策の推進
- ・森林整備財源としての森林環境税

国有林素材山元委託販売 入札結果

市 日: 平成29年11月20日(月)
市 場: 岩手北部森林管理署 (参加人数9名)

売払 番号	樹種	長級 (m)	径級 (cm)	等級	本数	材積 (m ³)	応札 枚数	土場
104-1	アカマツNA	2.00		低質材	層積	122.245	6	暮坪
104-2	アカマツNA	2.00		低質材	層積	56.637	6	暮坪
104-3	アカマツNA	2.00		低質材	層積	56.007	6	暮坪
104-4	アカマツNA	2.00		低質材	層積	133.169	6	暮坪
104-5	アカマツNA	2.00		低質材	層積	79.380	6	暮坪
104-6	アカマツNA	2.00		低質材	層積	105.689	6	暮坪
104-7	アカマツNA	2.00		低質材	層積	102.388	6	暮坪
104-8	アカマツNA	2.00		低質材	層積	86.902	6	暮坪
104-9	LA	2.20		低質材	層積	35.449	2	暮坪
104-10	LA	2.20		低質材	層積	48.014	2	暮坪
104-11	LA	2.20		低質材	層積	36.475	3	暮坪
104-12	LA	2.20		低質材	層積	74.183	2	暮坪
104-13	LA	2.20		低質材	層積	94.207	2	暮坪
104-14	LA	2.20		低質材	層積	148.112	2	暮坪
104-16	アカマツNA	2.00		低質材	層積	15.322	6	大志田
104-17	アカマツNA	2.00		低質材	層積	39.917	6	大志田
104-18	アカマツNA	2.00		低質材	層積	70.157	6	大志田
104-19	アカマツNA	2.00		低質材	層積	42.336	6	大志田
104-20	アカマツNA	2.00		低質材	層積	60.480	6	大志田
104-21	アカマツNA	2.00		低質材	層積	14.717	6	大志田
104-22	LA	2.20		低質材	層積	46.965	3	大志田
104-23	アカマツNA	2.00		低質材	層積	132.413	6	宇別
104-24	アカマツNA	2.00		低質材	層積	117.180	6	宇別
104-25	アカマツNA	2.00		低質材	層積	134.266	6	宇別
104-26	アカマツNA	2.00		低質材	層積	124.740	6	宇別
104-27	アカマツNA	2.00		低質材	層積	112.102	6	宇別
104-28	LA	2.20		低質材	層積	48.418	4	宇別
104-29	LA	2.20		低質材	層積	35.529	4	宇別
104-30	LA	2.20		低質材	層積	58.101	3	岩沢
合計						2,231.500		

市 日: 平成29年11月24日(金)
市 場: 岩手南部森林管理署 (参加人数12名)

売払 番号	樹種	長級 (m)	径級 (cm)	等級	本数	材積 (m ³)	応札 枚数	土場
604-1	スギ	2.00	18-42	一般材	519	60.961	4	横岳前山
604-2	スギ	2.00	18-44	一般材	500	61.777	4	横岳前山
604-3	スギ	2.00	18-40	一般材	727	79.469	6	横岳前山
604-4	スギ	2.00	18-40	一般材	641	77.849	6	横岳前山
604-5	スギ	2.00	18-44	一般材	499	65.916	6	横岳前山
604-6	スギ	2.00	18-42	一般材	513	66.990	6	横岳前山
604-7	LA	2.10		低質材	層積	28.610	2	横岳前山
604-8	LA	2.10		低質材	層積	30.041	2	横岳前山
604-9	スギ	4.00	18-46	一般材	109	29.784	3	鈴鴨
604-10	スギ	4.00	18-44	一般材	380	102.594	3	鈴鴨
604-11	スギ	2.00	18-48	一般材	136	19.166	3	鈴鴨
604-12	スギ	2.00	18-42	一般材	320	38.823	3	鈴鴨
604-13	スギ	4.00	14-16	一般材	123	11.346	1	寒沢川
604-14	スギ	2.00	18-40	一般材	240	28.626	3	寒沢川
604-15	スギ	2.00	18-44	一般材	445	54.936	3	寒沢川
604-16	LA	2.20		低質材	層積	78.898	0	寒沢川
604-17	LA	2.20		低質材	層積	55.842	0	寒沢川
604-18	スギ	4.00	18-38	合板	659	128.008	6	長橋
604-19	カラマツ	4.00	14-40	一般材	389	78.506	4	長橋
604-20	カラマツ	2.00	14-36	一般材	567	44.983	4	長橋
604-21	アカマツNA	2.00		低質材	層積	71.820	3	長橋
604-22	LA	2.20		低質材	層積	15.113	1	長橋
604-23	スギ	4.00	18-36	一般材	860	173.774	7	津谷川
604-24	スギ	4.00	18-38	一般材	409	81.216	8	津谷川
604-25	スギ	2.00	18-40	一般材	485	48.635	7	津谷川
604-26	スギ	4.00	18-46	一般材	104	31.590	4	畑入山
604-27	カラマツ	2.00	18-48	一般材	66	10.686	1	畑入山
合計						8,691	1,575.959	

(仮称)創設
・苗木生産者の計画生産を可能とする
具体的造林計画の策定等
2. 木材利用の促進と原木の安定的供給等
・「県産材利用促進条例」の制定と民間事業者への木材利用促進
・原木運送部門の強化(※当該2件は当組合より提案)等

3. 治山・林道事業の推進
4. 担い手対策の充実・強化
5. 全国植樹祭の開催招致
要望活動に続いて、県議会森林・林業政策研究会(会長・柳村岩見議員)主催の研修会と懇談会が開催され、東北森林管理局小島孝文局長が「林業の成長産業化に向けた諸施策の推進について」と題し講演を行った。

緊急事態!

『チェーンソーによる伐木等作業の安全に関するガイドライン』(その2)

伐採現場において死亡災害が多発しています。ガイドラインを職場内に周知し、労働災害防止を徹底してください!

◆5. 伐木作業
(4)基本的伐倒作業

ア. 伐倒は正しい受け口切り、追い口切りで正しくつるを残し、2個以上のくさびを使用する。イ. 受け口切り、ウ. 追い口切り、エ. くさびの打ち込み、オ. 伐倒及び退避

チェーンソー伐倒の基本事項です。あらかじめ確認してください!

※ガイドライン全文は厚生労働省及び林業・木材製造業労働災害防止協会のサイトに掲載されています。

視察報告

スロベニア・クロアチアの
林業生産現場と林業機械会社視察 (その2)

ノースジャパン素材流通協同組合 経営企画課長 吉田 佳右



(前号よりつづき)

【10月3日】

◆国有企業スロベニア森林サービ
スの現場

スロベニアでは、スロベニア森林サービスにより全ての森林に管理計画が義務付けられており、伐採木の選木も同社が行っている。

この日訪れた同社の林業生産現

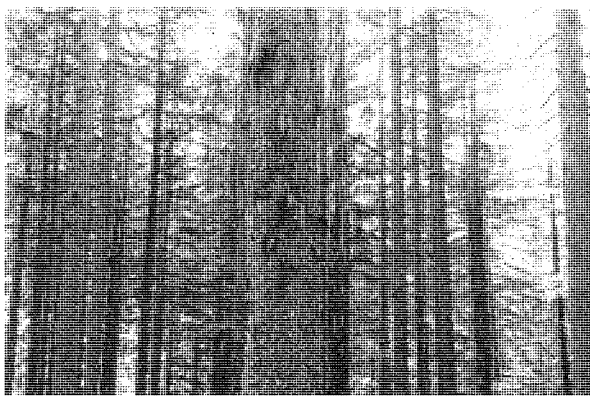


写真1 バークビートルに食害されたトウヒ

場では、バークビートル(キクイムシ)の被害を受けたノルウエー トウヒの伐採作業が行われていた (写真1)。

2014〜2015年にスロベニアで発生したバークビートルによるトウヒの食害は300〜400万³mに及び、スロベニアの年間



写真2 トラクタースキッドによる集材・搬出

伐採量の半年分に相当する材が被害を受けた。トウヒの素材価格は、通常は85〜100ユーロ(日本円約1万1千〜1万3千円)/³mで、良材では最高値で1000ユーロ(約13万円)/³mになることもあるが、被害材の場合は50ユーロ(6千円)/³m程度にまで下がってしまう。

この森林の所有者で、2016年スロベニア伐採コンクール3位の実力者でもあるマルコ氏が、自らチェーンソー伐倒を演習してくれた。集材・搬出はトラクタースキッドにより行った(写真2)。

材長は4〜10mが中心で、主な輸出先であるオーストリア向けは4m規格となっている。

作業は通常2〜3人で行い、平均伐採量は作業員一人当たり2千³m/年。伐採量7万³m/年のうち、ハーベスタを使用するのは4千〜5千³mである。チェーンソーによる伐採コストが18ユーロ(日本円約2400円)/³mなのに対して、ハーベスタ使用では20〜25ユーロ(2400〜3300円)/³mと割高になるため、伐採量が特に多い場合以外は、ハーベスタは使用しないという。

【10月4日】

◆トリグラフ国立公園の森林施業

現地では森林管理を行う企業、Gブレッド社の作業現場を視察した。テクニカルマネージャーのアレシユ・カドウク博士から説明を受けた。

同社は、リュブリャナ大司教区(行政区画とは別に、カトリック教会が布教等の目的で設ける区域の単位)が所有する森林の一部を

管理している。その面積は17307 haで、内訳は、生産森林65%、保安林29%、保存林6%となっている。樹種は主にノルウェートウヒ、次いでヨーロッパブナ、モミ、ヨーロッパカラマツ、カエデである。キクイムシやアイスストーム（寒風）被害のため、現在衛生伐による伐採量が全伐採量の70%と高比率になっている。

この管理森林の約60%は国立公園内に属している。また大司教区所有の不動産は全て「ナチュール2000」（EU規模の自然保護区ネットワーク）の保護区となっている。このことから、通常の森林法に加えて、さらに林業生産活動に禁止事項や制限などが課されている。地形、搬出路の状況（集材路の幅員や法面の岩石の状態等）、木材の規格（量、径級、材種）、天候等に応じた作業システムが選択されている。

GGブレッド社社員のマルコ氏によるスキッド搬出、チェンソー造材の実演があった。スキッドは



写真3 ヴェルテ社製4輪スキッド W100

イワフジ製が良かったが、生産終了のため、やむなくヴェルテ社製を使用しているとのこと(写真3)。国立公園内では、土壌の締固めを避けるため、大型機械の使用は制限されている。同社では、環境への配慮と経費の面から、クレーンも外して軽量化しているとのことであった。集材路は100m/ha、トラックが走行する林道は30x35m/haで、輸送コストのバランスをとるよう心掛けている。



写真4 早朝、ライトアップされているブレッド城

伐採は2〜3人で、委託業者が実施しており、1日の伐採量は40㎡（10㎡/人日）。伐採後は、自然形態に戻すためにブナ苗木を植林している。苗木は政府が支給するが、それ以外の補助金は出ていない。

◆スロベニアの観光スポット◆
◆ブレッド湖◆
美しい景観は「アルプスの瞳」とも称される。名所は、湖面から約100mの高さの断崖の上に建つブレッド城(写真4)と、湖に浮かぶ小島に建つ聖母被昇天教会。島へは乗合いボートが出る。

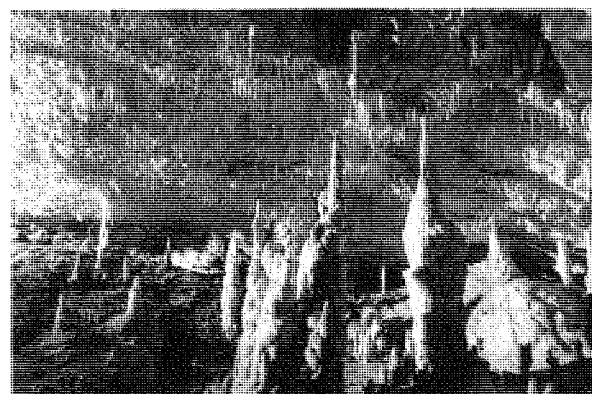


写真5 ポストイナ鍾乳洞の鍾乳石

湖は1周約6kmで、地元民のジョギングや釣りのスポットでもある。

◆ポストイナ鍾乳洞◆
ヨーロッパ最大の大きさを誇る鍾乳洞(写真5)。洞窟の長さは約27kmで、様々な色、形の鍾乳石や、1万人が入れるという「コンサートホール」と呼ばれる広場が有名。入り口からトロツコ列車に乗って3kmほど疾走した後、下車してガイドの解説のもと歩いて見学する。洞窟内ではホライモリという両生類を見ることが出来る。

(次号につづく)

ちよつと気になる木の話

17

役立つか役立たないか

— 昔の販売の思い出 —

昭和50年代後半九州の思い出

1. 広葉樹チップ用材の種分け

針葉樹人工林の皆伐であったが、出てくるのは巨大な広葉樹丸太ばかりで、肝心のスギ人工林丸太はスギタマバエの虫害を受けて、用材には向かない木ばかりであった。広葉樹はイスノキ、タブノキ、カシ類と直径60cm超が多数あり、半幹にしても集材機のドラムが悲鳴をあげる状況にあった。そのため、主任として現場で広葉樹の34cm上を別桧にし、他県の広葉樹に強い原木市場へトラックで輸送して販売することとした。当該市場からは大層喜ばれ、次もよろしくとなった。ある日、当時の上司に呼び出され、「これはどういうことだ!」「今まで契約している広葉樹のチップ工場が細い丸太しか入ってこないのは約束違反と言ってる」と。「高く売った方が良いでしょう」と言うと、「チップ工場が分別して売っ

てた取り分が減る」と。「それはあくまでチップ用ですから」と言うと、仕方ないと言って、継続することになった。今でも何となく同じにおい

2. 根柢の販売

年1回の銘木市へ出す丸太がなく、ふと職員に訊いたら、イチイガシの高めに伐った伐根があると。行ってみると直径1mはあるので、少し伐根部分を掘って切り取り、販売することとなった。この丸太は1・2mくらいの長さで中央部に穴が開いていたが、素晴らしい値段がついた。しかし、この出品に当たって、 m^3 単価を出さなければならぬので、「材積を出せ」と。「根と穴とがあり複雑だ」と言うと、水につけてあふれた水の量で m^3 数を出すことになった。しかし、銘木市場は1本いくらで販売していた。それからは1本で出品して、後で推定で m^3 数を出すことにしたのである。あくまで書類上の問題である。今でも、伐根の高いもの

は端丸太でも価値は当然出ている。山を買ったときは、注意してみると宝物があるかもしれない。

平成の初めの北海道の思い出

1. 国道脇のエンジュの見せ方

国道の脇にエンジュだけが密生した森林があり、次年度の治山工事の予定があった。このエンジュは使えらんと見込んで、支障木として事前伐採することにした。エンジュなので20〜40cm位と太くはないので、鋸で山の職員が実行して国道脇に山積みすることとした。25 m^3 位ずつ5位積んでおいた。すぐに電話が入り始め、「是非売って欲しい」とか「どこの市場でいつ出すのか」との問い合わせである。一ヵ月以上経過して、業界に話題が広まったところで、銘木市へ出品し、高値販売ができた。宣伝の仕方も色々ある。参考になるかは分からないが、エンジュの丸太は本望だったと思う。

2. 立木販売からの1本のミスナラ

立木で販売する中にテープを巻いて、この木は販売する物件に含めず、生産費を払って国の収入とする仕組

みがあった。当時全国で250本位と聞いたが、私の署で100本近くを占めており、立木買受業者には不満があった。

そうした中、ミスナラ1本だけがテープを巻いている販売物件があり、伐採している最中、買い受けた社長から「見に来て」との連絡。見に行ったら、倒したミスナラは元口も末口も腐っていた。相手は「こんなことしてるんだぞ。国有林は儲かんないよ」と。そこで、元口と末口から追いつきをして、1玉だけ何とか用材を確保した。木口は紫色がかつた真っ赤かだった。これが銘木市で m^3 単価200万円、1本450万円の価格がついた。後日、呼び出した社長が現れ、「お見逸れしました。さすが木を見る目が」と。両木口とも腐っていて、諦めないことも重要と改めて認識。先日、岐阜の銘木市を視察したが、木口が腐っている丸太は沢山あった。

思い出は尽きないが、今後参考に

森林・林業 おでかけ！レポート (宮城県仙台市太白区)

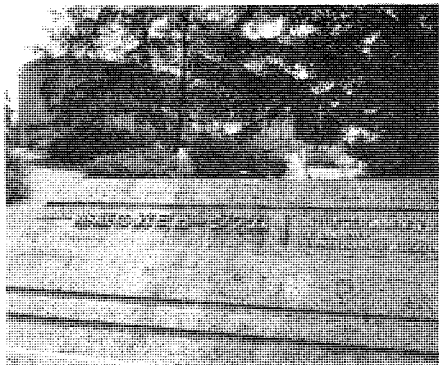
地底の森ミュージアム

所在：宮城県仙台市太白区長町南

4丁目3-1

電話：022-246-9153

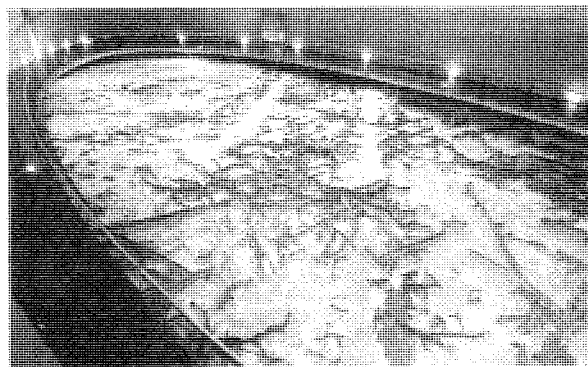
皆さんは「2万年前の森の実物を見ることが出来る」と言ったら驚かれるだろうか。それも仙台市内で。



周辺は住宅街で、子ども達の遊ぶ声がにぎやか

昭和62〜63年、この地区に小学校を新設するために、「富沢遺跡第30次調査」が行われた。富沢遺跡は元々地下鉄南北線建設工事に伴う試掘調査で発見されたもので、広さは90haに及ぶ。近世から弥生時代まで順に時代を遡る水田跡のほか、泥炭層や縄文時代の遺物な

どが見つかったが、さらに現在の地表の5m下から、約2万年前の旧石器時代の森の跡と、人間が野営をしたと思われる焚き火跡や石器を作成した跡が一緒に発見された。



地下空間に現れた2万年前の森。左上に焚き火跡と石器(復元)がある

地下水位の高い場所では地中の木材が腐朽することなく残ることは知られているが、人間が何かをした生活跡、それも旧石器時代のものが一緒に見つかることは世界的に極めて稀な例だったので、そのままの状態での保存、公開することになった。露出した木の根や

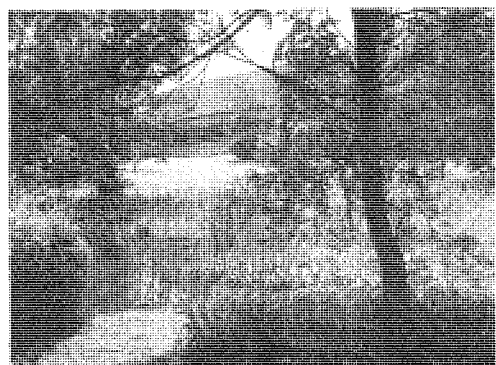
倒木、土壌を特殊な薬剤で保存処理し、さらに博物館の建物ですっぽりと覆う方法がとられた。

上の写真に見える放射状に広がった根や倒木は、グイマツ、トウヒ(トミザワトウヒと名付けられた)などが中心で、現在のサハリン南部から北海道北部の湿地林に似ているという。他にハンノキ等の広葉樹、各種植物の種子、シカの糞など、様々な生命の痕跡も見つかった。これは地上階の展示室でじっくりと見ることが出来る。

当時人類は定住生活を行っておらず、よって生活の痕跡も発見されにくいというのだが、ここで野営をしたご先祖様一行は、恐らく狩りの途中、ここで火を囲んで腰を下ろし、欠けた槍の先の石器を取り替えたりなどして一夜を過ごしたらしい。その様子は大スクリーンの復元映像で見ることが出来る。

さらに、もう一つの見どころが屋外に再現された「氷河期の森」だ。

トミザワトウヒに似たアカエゾマツのほか、グイマツやシラカンバなどの樹木と、ナガボノシロワレモコウやミツガシワなど、当時生育していたと考



再現された森はビオトープ顕彰・地域貢献賞を受賞

えられる草原や湿地の草も植えられている。タンポポなど「今どきの」植物が繁茂しないよう、細やかな管理が施されている。

仙台市富沢遺跡保存館 地底の森ミュージアム

地下鉄南北線長町南駅から徒歩5分。

無料駐車場25台。

展示室観覧料：一般460円、高校生230円、小中学生110円(団体割引その他減免あり。屋外のみ見学は無料)

開館時間：9:00~16:45 (入場は16:15まで)

休館日：月曜(祝日に当たるときは開館)、休日の翌日(土日祝日を除く)、年末年始。

平成 29 年 11 月 分 の 販 売 実 績

樹種	合板用			その他 製材用等			計		
	当月出荷量 (m ³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m ³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m ³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	10,169	109.6	124.3	12,379	112.9	129.5	22,547	111.4	127.1
カラマツ	2,346	99.9	73.7	793	104.8	135.2	3,139	101.1	83.3
アカマツ	2,632	88.6	90.9	205	171.3	158.6	2,836	91.8	93.8
その他	0	*	*	66	105.0	5.8	66	105.0	5.8
合計	15,146	103.8	106.2	13,441	113.0	117.8	28,588	107.9	111.4

樹種	バイオマス用素材		
	当月出荷量 (t)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	7,149	90.5	126.9
カラマツ	1,634	121.8	164.8
アカマツ	2,577	113.9	208.4
その他	122	33.1	*
合計	11,482	96.7	146.1

樹種	今年度累計			
	合板用 (m ³)	その他 製材用等 (m ³)	計 (m ³)	バイオマス (t)
スギ	77,643	90,965	168,607	50,286
カラマツ	23,022	5,725	28,747	13,263
アカマツ	21,149	1,299	22,448	16,324
その他	0	556	556	625
合計	121,814	98,544	220,358	80,498
目標達成率(%)	65.8	85.7	73.5	80.5
計画量	185,000	115,000	300,000	100,000

注)*印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

【平成 29 年 11 月 の 需 給 動 向】

- 各工場の原木不足の状況が更に強まり、当面この状況は続く見込み。
- 製材用もスギ4m材・3.65m材の引き合いが強まっている。冬伐り原木の集荷を強化している。
- アカマツ伐採が本格化したことでバイオマス用素材の出材が増量傾向、この状況は今後も続く。

耳からウロコ

今までであった意外な注文
— 現実を直視すれば —

木材の注文では、調達が難しいのは、調達困難な大径高齡級とか希少樹種とかがあるが、これは良くあるケースである。しかし、今回は今までであった意外な注文を抜き出してみよう。

先日、ヒノキフローリングの大手企業と話をする機会があった。大量の非住宅物件を受注できるかどうかは、ヒノキの枝の収集能力にかかっているという。

ご存知の通り、ヒノキの死節・腐れをくり抜いて、生きた枝を埋め込んで製品が作られる。最初のオーダーは、架線集材の荷下し土場で、ヒノキの枝を買わせて欲しいとのことだった。用途は今の話とドンピシャリである。現在は、この生節の駒を専門とする会社もあり、東海の森林組合の共販所では毎回市売りにかかって、市況も公表されている。ヒノキの枝を束にして販売され、現在も需要は旺盛である。

次は、浅草寺をはじめとする東京のお寺の門松である。門松だから松

であるが、大きなお寺は、一定の高さで3つに分枝した大きな松が必要だが、納入していた得意な造園屋さんの廃業で、入手が困難になったと。防風林の場所を何箇所か示唆したが、その結果は聞いていない。当然、一般家庭用の松飾りは夏から大量に準備すると言っていた。

次は、とある木材流通業者からの、白樺の多く分枝した枝の注文である。結構いい値段だったので、何に使うのか聞いてみると……何とデパート向けで……。冬のクリスマスシーズンになると、白樺の枝に白い綿をつけて飾るのが定番で、このための注文だと。そういえば日本人なら必ず見てるよな。でも世の中に流通しておらず、山から切ってもらうしかなく、白樺の生えている地域からしか調達できないと。なるほどである。

クリスマス用では、リース用のつるや松ぼっくりの注文もある。伝統工芸品用なら分かるが、一般的利用にも様々な「えつ」があるのである。でも、落葉の輸入量が多いのにはビックリである。「日本で注文しても人件費が高くて駄目だ」と肥料業者が言っていたが、ゴミにすると有料の地域も多いのに……。